

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 2, No. 1 神奈川県立 生命の星・地球博物館 Mar., 1996



およそ250万年前のサル化石 コロブス亜科の頭蓋骨

井上久美子氏撮影
(神奈川県立歴史博物館)

広谷浩子 (当館学芸員)

1991年末に丹沢山地東麓の神奈川県愛川町の中津層群より1頭のサルの頭骨化石が発見されました。見つかった地層の時代から、今からおよそ250万年前の日本最古のサルであることがわかりました。これまで日本で発見されていたサルの化石は、現在のニホンザルの先祖にあたるもので、時代もおよそ20から30万年前というものでした。これを一挙に200万年もさかのぼる古い時代の化石が発

見されたのです。しかもこの化石は歯や顔面がニホンザルとは全く違う形をしており、現在のアフリカやアジアに生息し、主として葉を食べているサルのグループ(コロブス亜科)に属することがわかりました。いったい中津層群から発見されたこのサルはどこからきて、どこへ行ってしまったのでしょうか。そして当時の日本列島とはどんなところだったのでしょうか。